



自閉症サイエンスカフェ@木の花幼稚園



12月17日（木）午後7時～9時

自閉症サイエンスカフェ@木の花幼稚園の開催によせて プロジェクト研究代表：金沢大学・学校教育系教授 大井 学
3歳児早期発見治療支援研究グループ：金沢大学子どものこころの発達支援センター・特任准教授 新井田 要
金城大学社会福祉学部社会福祉学科・教授 大井 佳子

この研究が目指しているのは、科学技術の最新の成果を生かしながら、自閉症者と市民と一緒に、健やかに過ごせる社会を作ることです。

アスペルガー症候群や高機能自閉症と呼ばれる、知的な遅れのない、またはそれ以上の知能を持つ、自閉症の人は、人口の約1%を占めるといわれています。残念ながら、まわりの無理解のために不都合な社会生活を送っている人が多く、社会もまた、その人たちの力や特性を生かせずにいます。他方で、遺伝子研究、脳の働きの映像化技術の進歩によって、これら知的遅れのない自閉症児・者を早期発見する技術開発が急速に進んでいます。新しい科学技術を生かすことが人と人との隔絶につながるのではなく、自閉症の人もそうではない人も共に豊かに生きることのできる社会を築くには何が必要なのか、この研究では、専門家、自閉症を持つ人やその家族、NPO、また、一般の市民が参加をして模索する、国内外初の試みです。

研究者は市民（今回は幼児の保護者）の考えを知り、市民は科学技術の展開を知って、両者の協力で、社会が自閉症児・者との共生をはかりながら必要な早期発見や治療を行うための仕組みを金沢の地域につくっていきたくと願っています。

その道筋を明らかにする試みの一つとして、木の花幼稚園にいらっしゃる皆さんとの対話の場を設けました。自閉症をめぐることがらだけでなく、世の中には健常の人も障害のある人もが存在しています。それはごく自然のことなのですが、通常、障害のある人は特定の囲いのあるところで過ごすようになりがち、されがちです。その中であって、木の花幼稚園は、健常児と障害児の共生が当たり前前の幼稚園です。それは、障害のある子どもに、健常の子どもが、やさしくお世話をしているのではありませんよね？子どもたちは、対等に、当然のこととして同じ場所で過ごしています。お父さん、お母さん方は、お子さんの姿を通して、いろんな子どもたちが一緒にいるからこそ起きる出来事を体験し、共に学びあうとはどういうことかを、間近に見ていらっしゃいます。

木の花幼稚園での生活が、保護者の皆さんにもたらしている視点や感性があるように思います。自閉症のお子さんとその保護者は、健常なお子さんとその保護者の理解を必要としていますが、同時に、豊かな多様性についての学びを提供もしている、という見方がここでは受け入れられています。

そんな皆さんの、心そのままのご意見が、今後の共に暮らせる社会の実現に向けて、大きな手がかりとなると考えて、木の花幼稚園にご協力をお願いする次第です。自閉症に理解のある意見を求めているわけではありません。どうぞお気軽にご参加ください。